

旭川医大 病院ニュース

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野美智枝

新年のご挨拶

病院長 東 信良



病院長として、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、病院機能評価受審、1病棟閉鎖に伴う診療科大移動、そして病院経営のかつてない停滞など当院にとって多くの試練等に直面し、職員の皆様におかれても多難な1年であったと思います。周囲を見渡すと、相次ぐ地域中核病院の規模縮小や機能削減、そして日本全体を見回すと数多くの病院の大赤字、看護師不足など、医療界にとって未曾有の危機を感じた1年でした。しかし、そうした中でも職員皆で前向きなアイデアを出し合い、一丸となって費用削減や収入増に向け日々努力する姿には感謝で目頭を熱くするとともに、「最後の砦」病院の一員としてのプロフェッショナリズムに徹した姿に勇気づけられました。

迎える新年には、昨年末に発表された近年稀にみる大型補正予算や診療報酬改定率(案)の追い風を感じながら、特定機能病院の本来業務である高度医療実践、医療者育成及び研究に邁進できるものと、過大かもしれませんのが期待をしております。

ところで、当院の病棟稼働率は昨年10月以降、86%を超えており、直近の平日は90%を超えて高稼働を続けております。手術室、血管造影室などは稼働率が軒並み最大値で推移しており、現場で働く職員からの切実な声が私にも聞こえております。さらに、もう少し高所から先を見渡すと、労働可能人口が2040年までに4割減になる我々の住むこの地域で、いかに患者ファーストかつ職員にも優しい病院運営を行ってゆくかを考え、本年を「6掛け社会を見据えた準備開始元年」にしなければなりません。のことから、2026年午年に達成すべき5項目を掲げてみました：①病床コントロールチーム本格稼働、②診療報酬改定対策チーム立ち上げ、③業務のスリム化(日常業務軽減のためのDX導入)、④5基幹病院での旭川市医療の近未来体制に関する検討開始、⑤道北道東における新たな広域医療支援モデルの具現化。

今後様々な職場で人員がAIで代替される時代になったとしても、医療こそ人手がかかる、そして人手をかけるべき職場です。これまで、多くの医療DXを導入してまいりましたが、いよいよ今年は、多くの職種の方々に「本当に仕事量が軽減された！」「もう、この環境から離れたくない！！」と思っていただけるようなデジタル・トランスフォーメーションを実現しなければならないと決心しております。

生き生きと輝いて働く環境での高度医療の実現！それを皆様と目指す1年にいたしましょう！

今号の掲載記事

○ 新年のご挨拶	1	○ 【報告】旭川医科大学キッズタウン病院☆開設	9
○ 第2回旭川医科大学クラウドファンディング成立のお礼とご報告	2~3	○ 【報告】病院長サンタがやってきた	9
— 感謝のクラウドファンディング挑戦記 —	4~5	○ 【報告】冬休みキッズスクール開催	9
○ 【挨拶】教授就任のご挨拶	6	○ 【報告】旭川工業の生徒さんたちからイルミネーションの贈りもの	9
○ 【報告】永年勤続者表彰(20年)	6	○ 【シリーズ・診療科紹介】	
○ 【報告】看護師特定行為 術中麻酔管理領域の活動開始にあたって	7	精神科神経科	10
○ 【報告】ランパーン病院(タイ)より医師2名を受け入れ	7	小児科(小児科・思春期科/新生児科)	10
○ 【報告】地域でも最先端治療を！クラウドファンディングの	8	○ 【薬剤部】副作用情報(84) 薬物性肝障害	11
ご支援でCAR-T細胞療法が始動	8	○ 【臨床検査・輸血部】今年の冬はインフルエンザにご注意ください	11
○ 【報告】院内急変に対応できる確かなスキルを	8	○ 【報告】認知症カフェボランティア向け合同セミナーを初開催	12
～新人看護師対象 BLS(一次救命処置)研修報告～	8	○ 【報告】看護部【公式】Instagram開設	12
○ 【報告】「多様な働き方推進事業者」認定ランクアップ	8	○ 患者数統計	12
		○ 時事ニュース	12
		○ 編集後記	12

報告 第2回 旭川医科大学クラウドファンディング成立のお礼とご報告

このたび、第2回旭川医科大学クラウドファンディング「地域医療を守るために、ともに走ろう | ドクターカー更新プロジェクト」が無事に成立して終了しましたので、紙面を借りて、お礼とご報告をお伝えさせていただきます。

ご支援者総数 873名 ご支援総額 56,844,000円

皆様のお力で患者搬送機能を備えたドクターカーの導入が実現します！



御礼



この度は「地域医療を守るために、ともに走ろう | ドクターカー更新プロジェクト」へご支援を賜り、誠にありがとうございました。

本年10月22日より実施しておりましたクラウドファンディングは、12月19日をもちまして無事に終了いたしました。800名を超える皆様のお力添えにより、第2目標の4,000万円を大きく上回る5,600万円ものご支援をいただき、最終目標として掲げていた「患者搬送機能を備えたドクターカー」の購入の目標を達成することができました。

この2ヶ月間、当院の患者様、地域の企業様、医療関係者の皆様をはじめ、本当に幅広いたくさんの方々からご支援をいただきました。ご支援金に加えて、応援と激励のお言葉や、これから地域医療への期待を寄せるコメントを数多くいただき、私たちにとって大きな励みとなりました。

いただいたご支援は、ドクターカー購入のための費用として大切に活用させていただきます。託していただいたご支援の重みを胸に、責任感を新たにし、より一層身を引き締めて地域医療の充実に誠心誠意取り組んでまいります。

新しいドクターカーは、地域の安心・安全を守り、一人でも多くの命を救うために大切な存在です。皆様のご支援により、地域全体で命を守る仕組みをより強固にすることができます。これから皆様とともに、この地域をもっと安心できる場所にしていきたいと思います。新しいドクターカーの導入後は、より早く、より確実に高度な医療を現場に届けられるように努めてまいります。

引き続き、プロジェクト活動報告や広報等を通じて、ドクターカー事業の歩みを発信してまいります。今後とも旭川医科大学病院の活動を温かく見守っていただければ幸いです。

令和8年1月吉日

旭川医科大学

学長 西川 祐司

旭川医科大学病院

病院長 東 信良

救命救急センター

センター長 岡田 基

「地域医療を守るために、ともに走ろう | ドクターカー更新プロジェクト」

プロジェクトリーダー 救命救急センター 副センター長 中嶋 駿介

プロジェクトメンバー 救急科

救急救命士 大滝 達也



～地域医療を守るために、ともに走ろう | ドクターカー更新プロジェクト～

皆様に深く感謝申し上げます

学長 西川 祐司

この度はドクターカー更新のクラウドファンディングにご協力いただき、本当にありがとうございました。おかげさまで、本学の救急チームが夢に描いていた理想的なドクターカーを入手し、継続的に運用していく目処がつきました。救急チームの士気もさらに上がり、市民の皆様の命を守るためにますます頑張ってくれると確信しています。本学の教職員と学生にとって、今回のクラウドファンディングの最も大きな収穫は、本学がこれほどまでに市民の皆様から期待されていることを実感し、勇気づけられたことではないかと考えます。私もあらためて、本学をより優れた、そしてさらに頼りがいのある医科大学にしていくために最大限の努力を尽したいと思っております。

病院長 東 信良

ドクターカーのクラウドファンディングご支援に深く感謝申し上げます。

当院の患者様、医療関係他の各団体様、そして、その他様々な方々から地域を問わず、多くのご支援を頂戴できましたことに、私ども職員一同、大変勇気づけられたところです。そのご支援にお応えすべく、今後も質の高い救急医療を継続し、病院をあげて広域の救急医療を守ってゆく覚悟であります。皆様からの期待に応え、信頼される病院として尽力してまいりますので、引き続きエールをお送りいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

救命救急センター長 岡田 基

この度はドクターカー更新のクラウドファンディングに多大なるご支援とご賛同を賜り、心より御礼申し上げます。

今回のプロジェクトを通じて、私たちはドクターカーが地域医療に果たしている役割や、その必要性について広く知っていただく機会を得ました。地域の皆様から寄せられた応援の声や励ましのお言葉は、私たちにとって大きな力となり、日々の活動を支える原動力となっています。

皆様から託された思いは、単なる車両更新にとどまらず、「地域の命を守る」という使命を改めて胸に刻むきっかけとなりました。これからも、救急医療の最前線で迅速かつ確実な対応ができるよう、スタッフ一同、技術と体制の向上に努めてまいります。

新しいドクターカーが地域を走り出す日を、どうか楽しみにお待ちください。

今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

救命救急センター副センター長 中嶋 駿介

ドクターカー更新に向けたクラウドファンディングにおいて、格別のご厚意を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。目標を上回るご支援のみならず、数多く寄せられた励ましのお言葉が、私たちの大きな力となりました。掲げた「地域医療を守るために、ともに走ろう」という理念を現実のものとするため、次は地域の皆さまと力を合わせ、新しいドクターカーを育てていく段階に進みます。今後の歩みにおいても、変わらぬご理解とご支援を賜れましたら幸いです。

救急科 救急救命士 大滝 達也

この度はドクターカー更新のクラウドファンディングに多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。皆さまの温かな想いが、医療と地域をつなぐ大きな力となりました。地域のつながりをあらためて実感する貴重な機会となり、心より感謝申し上げます。

新しいドクターカーの活躍に、ぜひご期待ください。



— 感謝のクラウドファンディング挑戦記 —

ドクターカー更新プロジェクト 目標達成までの道のり

プロジェクト立ち上げから今日までの日々を、皆様と振り返りたくイラストにまとめました。
私たちの活動を、ぜひ共有させてください。

START!

地域医療を守るために、ともに走ろう



- 1 病院内に特設ブースを設置しました。
来院者の方々からたくさんのご寄附をいただきました。



- 4 倉本聰プライベートライブラリーでご紹介いただきました。



- 5 ショッピングモールでドクターカーのイベントを開催しました。
多くの方にご参加いただきました。



- 2 旭川空港災害訓練に参加しました。



- 3 多くのメディアで情報発信しました。



- 6 特設ブースに設置したメッセージボードにたくさんのエールをいただきました。



「地域医療を守るために、ともに走ろう | ドクターカー更新プロジェクト」一同

- 9 12月19日募集期間最終日を迎えました。



- 8 12月16日第2目標達成！



GOAL!

これからも地域の安心を守り続けるために。
そして、安全で確実な救急医療を
未来へ引き継ぐために。



- 7 12月5日第1目標達成！



いただいたご支援は、ドクターカー購入のための費用として大切に活用させていただきます。

これからのドクターカー事業の歩みはプロジェクトページの活動報告にて発信してまいりますので、引き続き見守っていただけましたら幸いです。
活動報告は下記のURLまたはQRコードからご覧いただけます。



https://readyfor.jp/projects/asahikawa_drcar



教授就任のご挨拶

医療安全管理部 教授 林 達哉



2025年11月1日付けで医療安全管理部教授を拝命いたしました林 達哉です。私はこれまで2012年から13年間にわたり副部長として、多くの部長の下で医療安全の実務を学び、また実践して参りました。2025年4月からは私自身が部長職に就き、当院の患者安全の実践を担っているところではありますが、初代教授ということで身が引き締まる思いです。

患者安全・医療安全はご存じの通り、高度な医療を担う医療機関にとって今や必用不可欠なインフラであり、患者さんが安心して安全な医療を受けることができる基盤を形成っています。その実現のためには、「ヒトは誰でも間違える」を前提に、善良なる医療者が期せずして陥るピットホールを丹念に潰し、すべての医療人が安心して高度な医療に取り組める環境を整えることが何より重要であり、それこそが私の務めだと考えています。

私はこれまで正常な医療プロセス、あるいは正常から逸脱した医療事故の分析・研究からAiR(AMU information Rescue)などのシステム構築を通じて、旭川医科大学病院の安全な医療を目指してきました。今後は教授職として将来につながる医療安全の追求と発信力の強化により、患者さんからも医療者からも選ばれる旭川医科大学病院作りに、微力ながら貢献していく所存です。

これまで手術部長として関わってまいりました手術部、また准教授として研究・教育・医療の実践を学ぶことができた耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室、その他私に気づきと成長の機会をあたえてくれたすべての皆様に感謝申し上げるとともに、今後ますますのご協力、ご指導ご鞭撻のほどをお願いし、教授就任のご挨拶とさせていただきます。

永年勤続者表彰(20年)

勤労感謝の日にあわせ、11月26日(水)午後2時から、令和7年度本学永年勤続者表彰式が第一会議室で行われました。

表彰式は役員及び所属長の列席のもとに、学長から被表彰者に対し表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで、学長から永年にわたり本学の発展・充実に尽力されたことに対する感謝とねぎらいの挨拶がございました。

なお、被表彰者は次の方々です。(敬称略)

清水 恵子	(法医学講座	教授)
小林 徹也	(整形外科	講師)
山口 希美	(看護学講座	助教)
川端 有紀	(6階東ナース・ステーション	看護師長)
貝谷 沙織	(8階西ナース・ステーション	看護師長)
宮地 実穂子	(10階西ナース・ステーション	看護師長)
近藤 聰子	(5階西ナース・ステーション	副看護師長)
横山 美香	(患者総合サポートセンター	副看護師長)
佐藤 亜衣	(感染制御部	副看護師長)
濵谷 哲也	(救命救急ナース・ステーション	看護師)
松本 晃栄	(復職・子育て・介護支援センター	看護師)
宇野 貴寛	(放射線部	副診療放射線技師長)
南谷 克明	(手術部	主任臨床工学技士)



新たな取組 看護師特定行為 術中麻酔管理領域の活動開始にあたって

手術部ナースステーション 後藤 緑

私は、術中麻酔看護の質の向上のために麻酔科医師の知識や技術を学びたいと考え、自分自身のスキルアップを目的にこの術中麻酔管理領域パッケージの研修を受講しました。研修では、臨床推論や医療安全等について学習し、新たに多くの学びが得られ、大変充実した期間でした。

当院において、本領域の特定行為の活動は私たちが初めてとなります。今後の活動を具体的に考えるにあたり、まずは自分自身の看護観を見つめ直し、この術中麻酔管理領域で「看護師として」活動する意義を問い合わせ直すところから始めました。そして、多くの方々の温かいご支援とご協力のおかげで、具体的な活動計画を立案することができ、スタートラインに立つことができました。

今後は、患者さんに「あなたがいてくれて良かった」と心から思っていただけるよう、また、他のスタッフの模範となれるように、この新しい領域での活動を進めていきたいと考えています。

光学医療診療部・放射線部ナースステーション 山田 咲世

2026年1月より、「看護師特定行為 術中麻酔管理領域」の活動を開始いたします。

この領域は、正常な生体反応を抑制する患者さんへの対応を含み、高度な判断力が求められるため、看護師の高度な実践能力の維持と、患者さんの安全性の確保が極めて重要となります。

活動場所となる血管造影室では、手術部と同様に麻酔科医師管理下での全身麻酔手術が、年間約50症例実施されています。私はここで、麻酔科医師と密接に連携し、手順書に基づいて麻酔中の呼吸管理や輸液管理など、麻酔管理の一部を担います。さらに、術前・術後訪問を含めた周術期看護全体を通じて、看護の視点と医学的視点を融合させ、より安全で質の高い術中麻酔看護を提供したいと考えております。この取り組みによって、患者さんがより安心して手術を受けられる環境の整備を目指してまいります。

ランパーン病院(タイ)より医師2名を受け入れ： 大動脈疾患治療と麻酔科学分野での交流推進

国際交流推進センター

2025年10月から11月にかけて、国際交流協定相手先であるランパーン病院(タイ)より、Dit Yoongtong先生とChalitta Sroiwong先生を研究及び臨床研修を目的として受け入れました。

胸部心臓外科医であるDit先生は、本学外科学講座(心臓大血管外科学分野)にて約2か月間、タイにおける大動脈疾患発症率が日本より低いという点に着目し、遺伝的背景や発症メカニズムの解明を目的とした研究を推進しました。また、臨床研修においては大動脈疾患の外科的治療技術の向上を目指し、高度な治療手技の修得に努めました。麻酔科医であるChalitta先生は、本学麻酔・蘇生学講座にて約2週間、日本とタイの心臓麻酔学の比較研究を目的として、心臓手術における麻酔管理および体外循環の理論と実際について手術見学等を通じて集中的に知見を深めました。

研究や臨床研修を振り返り、Dit先生からは「教授による指導の下、複雑な大動脈手術手技に対する理解を深めることができ、非常に貴重な経験となりました。」、Chalitta先生からは「麻酔管理手法における多くの違いに気づき、また術中経食道心エコーを最大限に活用する方法など、沢山のことを学びました。」という感想と、受け入れへの感謝の言葉が寄せられました。

協定締結後、本学からもランパーン病院に医師及び学生数名が留学しており、今後も医療教育・医療技術の両面で相互の発展が期待されます。



▲臨床研修の様子(右側・Dit先生)



▲手術見学の様子(中央・Chalitta先生)

報告

地域でも最先端治療を！クラウドファンディングのご支援でCAR-T細胞療法が始動

血液内科 高橋 秀一郎

2025年1月15日から3月14日の60日間にわたり実施したクラウドファンディングは、245名の方から総額7,615,000円ものご寄附を頂き、無事に目標を達成し終了することができました。この場をお借りして、ご支援頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

プロジェクト終了後にご寄附で購入した細胞凍結保存容器は、2025年9月末に当院へ搬入されました(写真)。

この保存容器は造血幹細胞移植の移植細胞はもちろんのこと、難治性悪性リンパ腫に対する免疫細胞療法であるキメラ受容体T細胞療法(CAR-T細胞療法)の細胞も保存することができます。

CAR-T細胞療法は、患者さんご自身のT細胞を用いて行う免疫細胞療法であり、従来治療では治療が困難であった難治性悪性リンパ腫に対して高い治療効果が期待できます。しかしながら、CAR-T細胞療法は施設認定を受けた限られた医療機関でのみ実施可能で、道内では札幌市内の数施設でのみ提供されていました。

この度、皆様のご支援により細胞凍結保存容器を導入できたことで、当院はCAR-T細胞療法の施設認定を取得し、2025年11月からCAR-T細胞療法を開始しております。これにより、造血幹細胞移植およびCAR-T細胞療法における治療環境が一層充実し、道北・オホーツク地域の患者さんに対して、より最適な治療を提供できる体制が整ったものと考えております。

これからも地域格差のない医療の実現を目指して尽力して参りますので、血液内科をどうぞよろしくお願い致します。



▲細胞凍結保存容器搬入の記念に

報告

院内急変に対応できる確かなスキルを ～新人看護師対象 BLS（一次救命処置）研修報告～

救命救急センターナースステーション

2025年9月22日、今年入職した新人看護師を対象に、BLS(一次救命処置)研修を行いました。本研修は単なる手技の習得にとどまらず、看護師として院内での急変時に適切かつ迅速に対応できる実践的なスキルを身につけることを目的としています。具体的な内容は、救命処置の基本となるBLS(胸骨圧迫や人工呼吸)、AED(自動体外式除細動器)の迅速な操作、そして実際の急変場面を想定した一連のシミュレーションです。

指導の中で特に大切にしたのは、「なんなくいつもと違う」という患者の違和感にいち早く気づくこと。そして、もし対応に困ったときは一人で抱え込まず、すぐに「応援を呼ぶ」ことです。また、手技に不安があっても迷わず実践できる「Hands only CPR(胸骨圧迫のみの心肺蘇生)」に重点を置きました。医師や専門スタッフ到着まで絶え間なく胸を押し続けることが、命をつなぐ最大のカギになるからです。

実技では、深さと速さを意識した質の高い心臓マッサージに挑戦しました。参加者からは「たった2分間でも全力だと想像以上に体力を消耗する」「質の高い蘇生維持には、周りと声を掛け合い、早めに交代して助け合うことが不可欠だと肌で感じた」といった声が上がりました。教科書では学べない「現場の疲労感」や「チームワークの重み」を、実体験を通して深く学ぶ機会となりました。

研修での学びを活かし、地域の皆さんに安心していただける看護の提供に努めてまいります。



報告

「多様な働き方推進事業者」の認定ランクアップ

復職・子育て・介護支援センター

旭川医大は、仕事と生活の両立を支援し、誰もが働きやすく活躍できる職場環境づくりに継続して取り組んできたことが評価され、令和7年度に旭川市より「プラチナ認定」を受けました。令和6年度のゴールド認定に続く成果であり、大学としても大きな励みとなるものです。

今後も、職員一人ひとりが安心して働ける環境づくりを推進し、より良い職場づくりに努めてまいります。



旭川医科大学キッズタウン病院☆開設

一般社団法人 AMUSE (旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

2025年11月15日(土)に旭川地場産業センターにて「あさひかわキッズタウン2025」が開催され、医師のお仕事体験を担当してまいりました。小学校4~5年生の児童の皆さんが「旭川医科大学キッズタウン病院」のドクターとなり、たくさんの患者さんの命を救いました！

手術を終えた後は「とっても楽しかった！」「将来はお医者さんになりたい！」とキッズドクター達の笑顔

もたくさん見られました。この体験で子供たちが医療の世界に興味を持ち、将来の選択肢の一つとして考えるきっかけになれば嬉しいです。今後もこのようなイベントを通して社会貢献ができるよう、努めてまいります。



▲真剣に取り組むキッズドクターの様子



▲キッズドクターの指導にあたった先生たち

病院長サンタがやってきた！

12月23日にサンタクロース(東病院長)、トナカイ(井戸川看護部長)とツリーの妖精(郡事務局次長)が、入院中の子どもたちにクリスマスプレゼントを届けました。

旭川市内の支援施設であるママコンシェルジュウェンズデーさんからもプレゼントが贈られ、笑顔いっぱいのクリスマスとなりました！



旭川工業の生徒さんたちから イルミネーションの贈りもの

病院正面玄関のロータリーに北海道旭川工業高等学校電気科の生徒さんたちと道北電気工業協同組合の皆さんからイルミネーションを設置してくださいました。

設置日の11月20日には点灯式も行われ、西川学長から感謝の言葉をお伝えしました。

このイルミネーションは、授業の一環として始まり、今回で5回目を迎えます。職員はもちろん、来院される皆さんにとって冬の楽しみとなり、毎年、美しい光に癒されています。



冬休み キッズスクール開催

復職・子育て・介護支援センター

2026年1月5日・6日に冬休みキッズスクールを開催しました。年明けで寒い日が続き、風邪やインフルエンザもなかなか治まらない時期ではありましたが、各日17名、計34名の子どもたちが元気に参加してくれました。

今回の特別授業は緩和ケア診療部の小野寺 美子先生による『麻酔科医のお仕事』。麻酔を使って手術をする時はどうなるのか、実際に人形を触りながら聴診器をあてたり、点滴の模擬体験をするなど、子ども達の表情は真剣そのもの。大変貴重な体験ができました。

工作『～ポンポン毛糸～』では、ふわふわで可愛いオリジナルキャラクターが、あちこちで誕生していました。午後は大好きな学生さんと体育館での活動。玉入れや風船リレー、氷おになど元気いっぱい体を動かしました。おやつにはたこ焼き器を使って甘いスイーツを作り、お友達とおしゃべりしながらたくさん食べていました。これからもキッズスクールが子どもたちにとって冬休みの良い思い出になれば嬉しいです。



シリーズ + 診療科紹介

精神科神経科

精神医学講座 教授 橋岡 稔征
助教 中右 麻理子

From cradle to the grave——「ゆりかごから墓場まで」。これはイギリスの経済学者 ウィリアム・ベヴァリッジが提唱した社会福祉政策を象徴する言葉です。精神科は、乳幼児から老年期に至るまで、あらゆるライフステージのこころの問題に向き合う診療科であり、まさに医療の現場において「ゆりかごから墓場まで」こころと身体の双方に寄り添う医療を担っています。

当講座では、2025年10月に子どものこころを専門とする医師が新たに加わり、全年代に精神医療を提供できる体制が整いました。各医師が精神科全般の診療を行いながら、児童精神医療、他科と連携するリエゾン精神医療、老年期精神医療など、それぞれの専門性を活かして日々の診療にあたっています。

新体制への移行期には、病棟の一時閉鎖や外来新患の受け入れ制限などを余儀なくされました。現在は診療体制も安定し、病棟・外来診療に加え、認知症専門外来や子どものこころ専門外来といった特色ある外来も再開・充実しています。

旭川近郊をはじめ道北・道東地域は、依然として精神科医不足が深刻な地域です。当講座では、地域の精神医療を支える中核として、患者さんに寄り添う診療を大切にするとともに、次世代の精神科医の育成にも力を注ぎ、北海道全体の精神医療の発展に貢献していきたいと考えています。

精神医学講座について詳しくはこちら →
<https://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/psychi/>



シリーズ + 診療科紹介

小児科（小児科・思春期科/新生児科）

小児科学講座 教授 高橋 悟

小児科は、6つの専門グループ（神経、循環器、内分泌・代謝、血液・腫瘍、新生児、感染・免疫・腎臓）を有します。これらがお互いに連携し協力することで、子どもの全ての疾患に対して先進的かつ総合的に応できるチームを構成しています。

小児医療は地域のインフラの一部であると考え、道内13の総合病院、北海道療育園、旭川子ども総合療育センターへ医師派遣を行い、道央道北における地域医療と療育までを含めた総合的な診療体制を支えています。

また、研究活動の活性化が、高度先進医療を実行するための診療レベルを維持し、質の高い教育を可能にすると考え、教員はお互いに切磋琢磨し新たな学びを得ております。難治性小児神経疾患のiPS細胞を用いた病態解析・治療法開発や新生児糖尿病の遺伝子解析などで先進的知見を創出しています。“Act locally, Think globally”という言葉で表現されるように、世界的な視野を持ち未解決の問題への挑戦を続けております。

少子化が進行する社会ですが、国は目先の数字ばかりの実績評価ではなく、小児および周産期医療は重点的な対応が必要な分野として位置付けております。今後も、誇りと責任感を持って私達の使命に取り組んで参ります。

小児科学講座について詳しくはこちら →
<https://amu-pediatrics.jp/>



ご寄附のお願い 旭川医科大学基金は教育および研究活動を充実し、地域医療に根ざした医療・福祉のさらなる向上を目指しています。

◆基金全般 ◆修学支援 ◆研究等支援 ◆地域医療支援
◆看護学科開設30周年記念事業 NEW! ◆ドクターカー更新事業
◆その他の事業 からご寄附の使途をご指定いただけます。

感謝を伝える「旭川医科大学基金 令和6年度活動報告書」を
基金について詳しくはこちら →



大学の活動内容をお知らせする
公式ニュースレター発行中

毎月執筆担当が変わる「〇〇目線」、「学長#ひとりごと」など
ちょっと気になる話題が毎月
届きます♪ 登録はこちら →



副作用情報 (84) 薬物性肝障害 (Drug-induced Liver Injury: DILI)

薬品情報室 久保 靖憲

薬剤部

薬物性肝障害（以下DILI）は、医薬品やサプリメントの使用により肝細胞や胆汁の流れに障害が生じ、肝機能異常や種々の症状を呈する有害事象である。DILIは、薬の量が多すぎる場合に誰にでも起こりうる「中毒性」と、量とは関係なく体质や免疫反応などが関与して発症する「特異体质性」に大別される。後者はさらにアレルギー性と代謝性によるものに分類され、臨床でみられるDILIの多くはこの特異体质性である。

臨床症状は、無症候性の肝酵素上昇から、倦怠感、黄疸、腹部不快感、搔痒感などの自覚症状まで多彩である。原因薬剤は、抗菌薬、抗てんかん薬、抗真菌薬、抗がん薬など多岐にわたる。近年では免疫チェックポイント阻害薬による肝障害も増えている。漢方薬や健康食品、サプリメントも原因となりうるため、服用歴の丁寧な聴取が重要である。

診断には、投薬と発症の時間的関連を確認し、ウイルス性肝炎など他疾患を除外することが必須である。肝障害が薬物によるものかを評価する指標としては従来DDW-Jが使われてきたが、2023年に世界標準に合わせた新基準RECAM-Jが発表された。ただし、この指標が示すのはDILIの可能性の高低にとどまり、最終診断は医師の臨床判断に委ねられる点に注意が必要である。また、漢方薬や健康食品、サプリメントによる肝障害では適合性が低く、評価に限界があることにも留意すべきである。

治療の基本は原因薬剤の中止であり、多くの症例はこれで改善する。DILIは同じ薬を再使用すると再発しやすいため、原因薬剤の特定と再使用の回避が重要である。重症例では肝不全に進行し、肝移植が必要となることもある。これらの重篤化や再発を防ぐには、肝機能の定期的なモニタリングによる早期発見と、患者への症状に関する適切な情報提供が不可欠である。

＜参考文献＞田中 篤：「薬物性肝障害スコアリングシステム — RECAM-J 2023 —」肝臓 65巻10号、482-490、2024年

今年の冬はインフルエンザにご注意ください

臨床検査・輸血部

微生物検査部門 竹中 佑太

いつも臨床検査・輸血部の活動にご協力いただきありがとうございます。

毎年、冬になると猛威を振るっていたインフルエンザでしたが、近年はCovid-19（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大に伴い感染対策が実施された結果、大きな流行には至っていませんでした。しかしながら、今年度はインフルエンザの変異株「サブクレードK※1」によって、例年に比べ早期から大流行の兆しが見られることが、ニュースなどで取り上げられています。

臨床検査・輸血部ではイムノクロマト法※2)を原理とするインフルエンザおよびCovid-19の検出、PCR法※3)によるCovid-19の検出を行っています。下のグラフは当院で実施されたイムノクロマト法のインフルエンザおよびCovid-19における検査陽性率を表しています。新型コロナウイルスのオミクロン株BA.5が流行した2022年11月、Covid-19の検査陽性率は20%に迫りました。2023年5月に5類感染症に移行された後も様々な変異株が流行を繰り返しましたが、2024年10月以降は減少傾向へと転じました。一方、インフルエンザの検査陽性率は2022年度の3.8%から翌年に7.4%へ増加し、ついに昨年は12月に10%を超えるました。そして変異株が登場した今年は、11月時点ですでに検査陽性率が10%を超えていました。このことから、今年のインフルエンザは旭川市内においても流行が早く、また今後の感染拡大が予想されます。

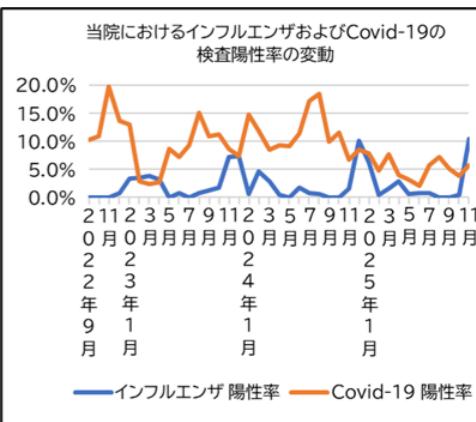
「アフターコロナ」という言葉をよく聞くようになりましたが、依然としてCovid-19は終息していません。今年はインフルエンザの大流行も予想されますので、今一度、外出時における感染対策の徹底をお願いいたします。

臨床検査・輸血部では、今回紹介させていただいた検査の他にも、様々な検査を実施しております。これからも地域の方々のお役に立てるよう、検査部一丸となって業務を行ってまいります。

※1 インフルエンザは毎年少しづつ形を変えます。その変化を細かく分けた名前の一つが「サブクレードK」です。

※2 検体中の特定の抗原（ウイルスなど）が抗体と反応して可視化される仕組みを利用し、インフルエンザなどの感染症を短時間で判定できる迅速検査法です。

※3 ウィルスなどの遺伝子を調べて「感染しているかどうか」を調べる検査で、遺伝子を何倍にも増やして検出するため、感染の有無を高い精度で確認できるのが特徴です。



報告

認知症カフェボランティア向け 合同セミナーを初開催

老人看護専門看護師 金 絵理
認知症看護認定看護師 内山 寛美
精神科認定看護師 佐藤 真帆

旭川市長寿社会課と共に、市内14か所の認知症カフェのうち6か所が初めて一同に会し、各カフェの活動紹介や課題を共有しました。



認知症・せん妄対応コンサルテーションチームとのトークセッションでは、認知症の方が日常で困ったときに周りが支えられる街を目指す願いとともに、身体拘束最小化やせん妄予防研修を紹介し「病院の取り組みを聞き安心した」との声が寄せられました。

グループワークでは、参加しやすい送迎の工夫、各カフェの活動を地域に伝える情報発信や当事者の役割づくりの重要性等について意見が交わされました。今後も、認知症の方が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきます。

報告

看護部【公式】Instagram開設

看護部 教育担当副看護部長 植山 さゆり

看護部ではこのたび、日々の看護の取り組みや職場の雰囲気をより身近に感じていただけるよう、看護部【公式】Instagramを開設しました。12月1日には、記念すべき初回投稿を無事に迎えることができました。

今後は、看護職員が専門性を発揮し、いきいきと働く姿や、チームで支え合う現場の雰囲気、新人研修やラーダーレベル別研修など教育的取り組みを通して、看護部の「いま」をリアルにお届けしていきます。将来看護職を目指す学生の皆さんや現場で活躍する看護職・他職種の方々、そして地域の皆様や患者さん・ご家族にも、当院看護部の魅力や大切にしている思いが伝わることを願っております。

これからも、さまざまな内容を発信していく予定です。ぜひフォローしご覗ください。



令和7年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来患者延数	一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	初診患者数	紹介割合	入院患者延数	一日平均入院患者数	病床稼働率	前年度病床稼働率	平均在院日数(一般病床)
7月	29,728	1,351.3	97.9	1,043	102.0	14,437	465.7	83.9	76.2	10.1
8月	27,310	1,365.5	97.8	967	100.6	14,427	465.4	83.9	77.8	10.2
9月	28,322	1,416.1	97.9	1,031	101.3	13,462	448.7	80.9	77.0	10.0
計	85,360	1,376.8	97.9	3,041	101.3	42,326	460.1	82.9	75.1	10.1
累計	169,860	1,369.8	97.8	6,196	101.2	83,312	455.3	82.0	76.0	10.2

時事ニュース

- 白衣式
12月17日（水）
- 冬休みキッズスクール
1月5日（月）～6日（火）
- 大学入学共通テスト
1月17日（土）～18日（日）

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。2024年の年末にインフルエンザに罹患したのがついこの前だったように思いますが、月日が経つのはやはり早いものですね。さて、2026年はどうやらスポーツの祭典が盛り沢山な1年となっているようです。2月には冬季オリンピック、3月にはWBC、6月からはFIFAワールドカップ、9月からは第20回アジア競技大会。朝、起きれるかな。。。

臨床検査・輸血部 佐藤 多嘉之